



## 令和5年度通学路安全対策推進モデル地域研究事業の取組

上島町教育委員会

### 1 取組の目的

- (1) 子どもの視点に立った校区内の通学路危険箇所の調査を実施するとともに、コミュニティ・スクールによる地域連携を生かした災害安全をはじめとする総合的な安全対策を検討し、改善策を講じる。
- (2) 学校及び上島町教育委員会等の関係機関が緊密に連携・協働する体制を整備し、通学路における児童生徒の安全確保に向けた実効的な取組を進める。

### 2 町教育委員会の取組の内容

#### (1) 通学路安全実務者会議【4月17日、12月4日】



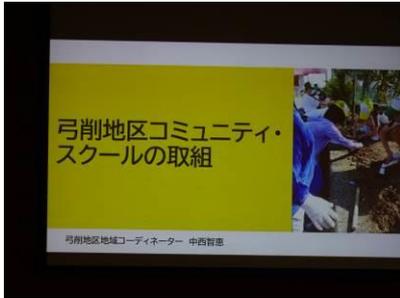
各小中学校及び弓削高校の学校安全に係る中核教員、弓削商船高等専門学校教授、町内関係機関の実務者が集まり、通学路安全や災害安全に関する総合的な安全対策について、協議を行った。

#### (2) 通学路安全実践委員会【7月10日、10月13日、12月15日】



年3回の通学路安全実践委員会を開催した。学校関係者、道路管理者、警察等の代表者が集まり、町内の通学路における危険箇所に関する情報共有を行った。また、通学路安全対策アドバイザーとして愛媛大学から松村暢彦教授を招聘し、交通安全教育を学校でする意義について、講義や指導助言をいただいた。

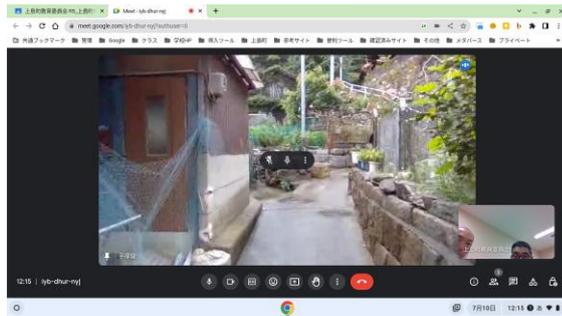
### (3) コミュニティ・スクール研修会【8月2日】



第 3 回 生名地区学校運営協議会報告書	
( 生名 ) 地区学校運営協議会 会長 上村 建太	
1 日 時	令和5年10月31日
2 場 所	生名小学校会議室
3 出席人数	8名 (内 生名小教職員2名)
4 欠 席 者	5名
5 傍聴者数	0名
6 議 事	
【開会挨拶】	
運動会、祭りと行事がたくさんあり、子どもたちのよい経験になった。	
(1) 各種団体等の見守り活動について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動がなく、下校が早くなっている。駅伝が始まると遅い下校となるが見守りをお願いしたい。実際に通学路を歩き、マップを作成したところ、危険な箇所は多くある。</li> <li>・ 見守りを続けているが、改善されたところはあるか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 稲浦の峠のネット工事をしている。</li> <li>→ 西浦の集会所近くの壊れそうな小屋については、個人所有のため、児童に気を付けるように指導している。</li> <li>→ 中浦の横断歩道は、警察に呼び掛けて作ってもらった。</li> </ul> </li> <li>・ 集団下校についても指導をしてほしい。</li> <li>・ 野犬が増えている。何かが起こってからでは遅い。働き掛け続けたい。</li> </ul>	

コミュニティ・スクール研修会において、町内すべての小中学校の学校運営協議会を通じて、通学路の安全対策に向けて地域連携を進めることを確認した。2学期以降、それぞれの地区での学校運営協議会で通学路の危険箇所を情報共有し、子どもたちの安全確保に向けた話し合いの場をもった。

### (4) 通学路安全点検【7月10日、7月24日、9月20日】



学校、スクールガードリーダー、道路管理者、警察が立ち合って通学路安全点検を行った。今年度は、事前に通学路安全対策アドバイザーから指導助言を受けたうえで現地を視察し、対策を協議した。

### (5) 通学路の危険箇所安全対策（一部）

① 崖崩れの危険がある箇所において、法面工事を行った。



② 見えかかっていた横断歩道を引き直した。



③ 見通しの悪い交差点のカーブミラーを二面鏡にした。



④ 劣化したコンクリート階段を補強した。



### 3 拠点校（上島町立生名小学校）の取組の内容

(1) 通学路安全点検の実施（5・6年生）【10月13日】



児童が自分たちの通学路を歩いて、子どもの視点に立った通学路安全点検を行った。通学安全アドバイザー及びスクールガードリーダーから適宜アドバイスをいただきながら、通学路に潜む危険性について調べた。

## (2) 通学路安全マップの作成（5・6年生）【10月31日】

1班 ぼうさい探検隊マップコンクール



安全なポイント    きげんなポイント    インタビューポイント

1班 ぼうさい探検隊マップコンクール

<p>ポイント1 きげん</p>  <p>道路の人の視線で木が邪魔で人が走っているのが危い。</p>	<p>ポイント2 きげん</p>  <p>凹凸がある場所。急な崖があるとな雨でも滑れる。</p>	<p>ポイント3 きげん</p>  <p>古い家が増えて土石崩れ、崖崩れが起きる。</p>	<p>ポイント4 きげん</p>  <p>空き地。ブロック壁がひび割れて危ない。近くに行かないこと。</p>
<p>ポイント5 きげん</p>  <p>空き家。石が落ちてくる。ひび割れて倒れそう。</p>	<p>ポイント6 きげん</p>  <p>空き家。壁が剥がれているから危ない。</p>	<p>ポイント7 安全</p>  <p>空き地。ブロック壁よりまっただから安全。</p>	<p>ポイント8 きげん</p>  <p>急な上り下りの道路。4つの道路が組み合わせて危ない。事故が起きるかも。</p>
<p>ポイント9 きげん</p>  <p>歩道。穴が空いていてこけて危ない。靴が挟まったらめげなくなる。</p>	<p>ポイント10 きげん</p>  <p>歩道。柵が無いところがある危険。覗き込んだら危険。</p>	<p>ポイント11 きげん</p>  <p>空き地。斜めになっているから危ない。</p>	




通学路安全点検をもとに、児童たちによる通学路安全マップの作成を行った。その中で、自分たちが撮影した通学路の危険箇所をタブレットでマッピングしたり、付箋を使ってまとめたりして、通学路の危険箇所とその安全対策について話し合った。

## (3) 拠点校の取組に関する情報共有



生名小通学路安全点検

#NEW #kamijima dictionary plus

生名小学校では、令和5年10月13日に通学安全点検を行いました。

愛媛大学の松村先生や生名地区スクールガードリーダーの上村さんの指導や助言をいただきながら、通学路の危険箇所を確認しました。



拠点校の取組を上島町の公式ウェブサイト「かみじま事典」に掲載し、町内の小中学校や地域との情報共有を行った。

## 4 協力校の取組の内容

### (1) 見守り活動等の充実（上島町立魚島小中学校）



令和5年度より離島留学制度によって町外からの児童生徒を受け入れている魚島小中学校において、子どもたちの安全を守り、遠隔地にいる保護者も安心できるよう、見守り活動や安全確保に関する取組の強化を図った。

## (2) 小中高校が連携した実践（上島町立弓削小学校、弓削中学校、愛媛県立弓削高校）



災害安全を含めた総合的な安全対策に向けて、町内の小中高校が一緒に避難訓練や消火訓練を行った。

## 5 取組の成果

- (1) 学校と教育委員会及び関係機関が緊密に連携・協働する体制を整備し、横断歩道やカーブミラーを整備することで、通学路における児童生徒の安全確保に向けた具体的な取組を進めることができた。
- (2) 子どもの視点に立った通学路危険箇所の調査を行うことで、児童自身が通学路に潜む危険への気付きや危険予測能力を高め、情報を見える化して町内に共有することができた。
- (3) コミュニティ・スクールによる地域連携によって、子どもたちの安心安全を守る総合的な安全対策を話し合い、学校、保護者、地域の連携を強化することができた。

## 6 今後の課題

- (1) 関係機関と連携しながら、安全対策が未実施である町内の通学路危険箇所について、引き続き対策を講じる必要がある。
- (2) 上島町通学路安全プログラムの活用について、工夫、改善するとともに、忌憚のない地域からの声を受け入れることのできる持続可能な連携・協力体制を構築する必要がある。